



活動別「森林を美しくする ための国民運動」紹介

国民運動 その①

「自分の山再発見運動」 の呼びかけ

不在村者所有の 森林の整備

日本には現在、不在村者の所有する森林が全国で約三二七万ヘクタールあり、これは私有林の約四分の一を占めています。不在村森林所有者とは、所有している森林と同一の市町村内に居住していない所有者のことを指します。これは、所有者の山村から都市部へ転居、相続による所有権の異動などによって起こると考えられます。不在村森林所有者でも積極的に森林の手入れをされている方がおられますが、概し

て所有者自身が山を持っている自覚がなかったり、手入れをしようという意欲が低い場合も少なくないと言われます。森林が手入れされない理由に、「周囲の森林所有者が森に対して無関心」という回答が約20%も占めているほどです（図3）。

間伐などの手入れは、所有者自身が行うのが基本ですが、技術的に高度な作業などを森林組合に委託することもできます。その場合、所有する森林の境界を明らかにしたり、整備に必要な道路を入れるときには、隣接する森林の所有者から了承を得なければなりません。誰が所有しているのかわからなければ、山や森林の整備はできないのです。

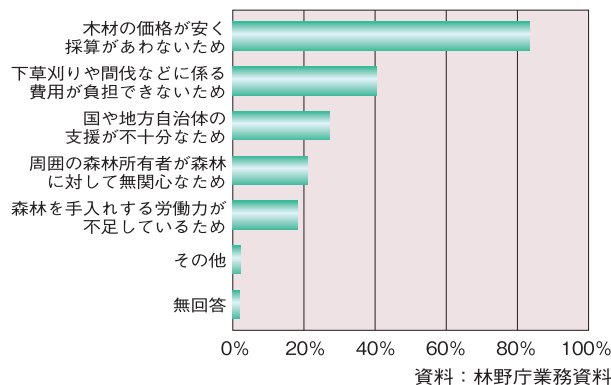
その問題を解決するために行われるのが、「自分の山再発見運動」です。呼びかけを行うことによって自分が森林を所有しているという自覚を持っていただき、所有する山が現在、どのような状況にあるのかを知ってもらうことが目的です。このため、市町村の森林組合からダイレクトメールを出した

り、地域レベルで推進会議を開くなどの取り組みを通して少しでも不在村者の所有する森林でも整備が進むように取り組んでいきます。
荒廃した森林を美しい森林に導くために「美しい森林づくり」は、まず、自分の所有する山を見直すことが重要なのです。



台風被害を受け荒廃してしまった、整備が必要な森林

図3 森林が手入れされていない理由



資料：林野庁業務資料

国民運動 その②

民間企業に対する 呼びかけ

民間企業の CSR活動に期待

近年、民間企業におけるCSR（社会的責任）の一環として森林に関するボランティア活動を行う企業が、全国的に増加しつつあります。

例えばビール会社は、水との関係が強いので、自社工場の上流にある森林を自ら整備する活動が見られます。しかし、企業がもっとも協力しやすいボランティア活動は、活動助成金の提供でしょう。企業からいただいた活動助成金は、植樹活動など、市民ボランティア活動を援助するために利用されています。これらのボランティア活動にも積極的に参加する企業は増えてきました。

あるコンビニエンスストア運営会社

では、自社店舗のレジの前に緑の募金箱を設置しています。これも、民間企業におけるボランティア活動の一つと言えます。

ただ、最近の傾向として、最初は活動助成金を提供していただけの企業が、社員のボランティアに対する意識を高めるため、市民ボランティア団体と一緒に活動し始めるケースも見られるようになってきました。

製紙や林業を営む民間企業には、自社保有林を持っているところが少なくありません。それらの企業に対し、自社保有林の整備を呼びかけるのも、この運動の一つです。

広大な自社保有林を持っている企業の多くは、林業用の職員を雇い、きちんと整備を行っています。しかし、手入れをされていない企業もあるので、積極的な自社保有林の整備を呼びかけていこうと考えています。

さらに、国有林や市町村有林など公有林と協定を結び、定期的に植林や間伐を行うなど、企業ぐるみでボランティア活動に参加するケースも見られます。

企業におけるCSRの重要性が叫ばれる昨今、積極的に呼びかけを実施すること、民間企業の、環境貢献を目的とした森林整備への取り組みが活発化していくでしょう。

民間企業における 森林づくりの推進例

食品メーカーA社の場合

和歌山県、高知県、山梨県の三か所に「A社の森」を設置。社員や地元住民の参加により、植林や間伐などを実施している

航空会社B社の場合

空港周辺において、国有林の「法人の森林」などを活用し、社員参加の森林づくりを実施している

飲料メーカーC社の場合

全国11か所にある工場水源地の森林整備を、国有林の「法人の森林」などを活用して実施している



企業がボランティア活動する和歌山県の森林

国民運動 その③

NPOと連携した 取り組み

幅広く活動する 森林ボランティア

NPO団体として組織し、活動することの多い森林ボランティア。彼らの活動は、身近な森林の整備や保全を始め様々です（図4）。春は植え付け（植林）、夏は苗木のまわりの草刈り（下草刈り）、冬は間伐など季節にあわせて活動内容は幅広く、なかには本業として携わる林業労働者と同等に近い作業をするような団体もあります。

また、伐採した木で炭を作ったり、自然観察会を行ったり、森林に触れるレクリエーション活動などを主催し、運営することも、ボランティア活動の一つです。

森林ボランティアで一番大切なのは、

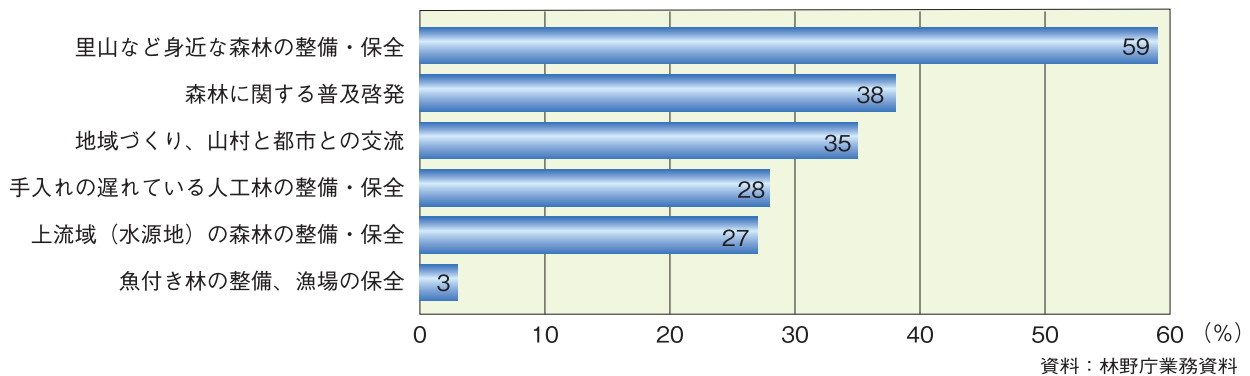
活動を通して森林の大切さ、森林整備の必要性を実感することだと思っています。木の伐採を自然破壊だと思っている人は、いまだに多いようです。でも、間伐などの伐採は、良い木々を育てるためにも、森林の機能を高めるためにも欠かせない作業です。残すことも大切ですが、伐採して利用することも必要なのです。

森林ボランティアの活動は、子どもたちに正しい森林の知識を教える役目も果たしています。

最近では、子どもたち主体のボランティア団体が増えてきて、有名な団体としては、緑の少年団が知られています。全国で四一七〇団体が結成され、約33万人の団員が活動しています（平成17年現在）。子どもたちは、植樹祭や自然体験活動、鳥、昆虫の愛護活動、また緑の募金活動などを通して、森林を肌で感じ、森林の持つ機能や役割を学びます。森林ボランティアは、森林への関心や理解を深める環境教育の一環でもあるのです。

森林の整備を行うことだけが、森林ボランティアの活動ではありません。森林についての普及啓発活動は、子どもから年配者まで誰でも参加できます。国民の皆様の、森林に対する意識の向上のため、ぜひ参加していただきたいものです。

図4 森林ボランティアの活動目的



募金の一部は、青少年に対する環境教育など緑化推進に使われます。



掘り起こし作業を行う
緑の少年団の子どもたち